

会 議 名	第2回高校生学習支援事業業務委託事業候補者選考委員会
開催日時	令和7年1月30日（木曜日）午後3時から午後4時40分まで
開催場所	港区役所
委 員	明治学院大学社会学部教授 金子 充（委員長） 保健福祉支援部長 新宮 弘章（副委員長） 早稲田大学教育・総合科学学術院教育学部教授 三尾 忠男（委員） 上智大学総合人間科学部教授 新藤 こずえ（委員） 保健福祉支援部生活福祉調整課長 大原 裕美子（委員）
事 務 局	生活福祉調整課自立支援担当係長 櫻庭
会議次第	1 開会 2 第1次選考結果について 3 第2次選考について 4 閉会
配付資料	・次第 ・資料1 高校生学習支援事業業務委託事業候補者選考一次審査集計結果 ・資料2 第3回選考委員会進行スケジュール（案） ・資料3 高校生学習支援事業業務委託プロポーザル第二次審査の実施に関する留意事項（案） ・資料4 第二次審査採点基準表（案） ・資料5 第1回高校生学習支援事業業務委託事業候補者選考委員会会議議事録（案） ・参考資料1 高校生学習支援事業業務委託事業候補者募集要項（各様式を含む。） ・参考資料2 高校生学習支援事業業務委託事業候補者選考基準 ・参考資料3 仕様書
会議の内容	
委員長 事務局	【1 開会】 （委員長より挨拶） （事務局より配布資料確認）
事務局	【2 第1回選考委員会議事録概要について】 （事務局より資料5 議事録について説明） 内容を確認し、修正等があれば2月20日までに連絡願いたい。 【3 第1次選考結果について】

委員長	3者から応募があった。本日はこの3者のうち、二次選考に進む事業者を決定する。
事務局	(事務局より資料1 一次審査集計結果について説明) 事務局採点のうち「専門技術力」は、同種業務の実績数により採点を行った。実績が1～2件の場合は1点、3～4件は2点、5～6件は3点、7～8件は4点、9件以上は5点としている。 A事業者の実績は5件のため3点、評価係数として2倍にして6点となり、5委員分の合計により30点となった。 B事業者の実績は6件のため3点、評価係数として2倍にして6点となり、各委員分の合計により30点となった。 C事業者の実績は15件のため5点、評価係数として2倍にして10点となり、各委員分の合計により50点となった。 事務局採点のうち「実施体制の的確性」は、管理責任者等の実績により採点を行った。3者とも、総括責任者、業務責任者、副業務責任者のいずれも経験者を配置するとしていたため5点となり、評価係数として2倍にして10点となり、各委員の合計により50点となった。 「見積価格」については、いずれの事業者も参考事業規模に対して減額金額が5%未満で提案されているため、満点の100点となった。
委員長	事務局採点について質問はあるか。
E委員	「専門技術力」の経験年数は、中断していても年数に問題ないか。
事務局	中断していても通算の経験年数で判断している。
委員長	各委員から評価のポイントなど、講評をお願いしたい。
E委員	A事業者は不安を感じる点がある。管理運営の「適切な人材」とあるが具体的な記載が不十分。プレゼンテーションで確認したい。地域連携については、理解しているか確認をしたい。中退防止の取り組みは、内容が薄い。5月中旬から6月を要注意として提案しているが、事業開始前にあたるので少し心配。事業についてどこまで理解しているのか。 B事業者は標準という印象。安心して任せられるが、特段秀でているところもない。キャリアイベントの提案がたくさんあるが、実効性に不安。 C事業者は、相談がスマートフォンの利用が前提となっているが、その他の方法は考えているのか。大学との連携で自習スペースの確保とあるが、具体性がみえない。中退防止の取組では、いろいろと「提供します」と書いてあるが、具体性がない。
A委員	3者とも一定のレベルにある。 A事業者は福祉がベース、B事業とC事業者は教育や塾、勉強というところを重視している団体か。 A事業者は相談支援について、丁寧に取り組むところが評価できる。一方で個別支援が充実している様に見えるが、システムとしてどうか懸念がある。

	港区の特性についてどのようなイメージを持っているか見えにくい。キャリアイベントや学校選びの具体的な実施方法は、詳しく聞いたほうがいいのか。B事業者は教員免許を持っている人も多く、学習支援のノウハウをもっているように思われる。特別な支援を必要とする子供の配慮について詳しく書かれている点も評価できる。子どものカウンセリングについて、情報共有するとあるが、子どもの立場からするとどうか。個人情報の観点からみても確認が必要。学力向上ではなく、居場所を求める子どもへの対応の工夫は、もう少し説明が欲しい。エリアを分けるということだが、実際にできるのか、どのような工夫があるのか。あとは非認知スキルに関する理解がどうなのか。団体としてのビジョンはよいが、現場で実際に関わる人が理解しているか。C事業者は安定感がある。特別良いところはないが、ダメなところもない。学習支援についてはノウハウがあり、学力向上のための支援システムは申し分ない。気がかりな点は、心理師等の専門職による相談機能が弱い印象。カウンセリングは派遣を利用するとなっているが、毎回同じ人が来るのか、団体の理念や子供のことを分かってくれるのか気になる。居場所を求める子どもへの対応の工夫は、もう少し説明が欲しい。
C 委員	A事業者は、港区の地域特性ということで、外国人対応が評価できる。出欠状況確認のICT活用や個人情報の取り扱い等について、評価できる。 B事業者は、学習に特化している。学習支援では安定感がある。キャリアイベント提案がいろいろあり、高く評価している。 C事業者は、学習支援の方法について、様々な進路選択を考えている生徒に合わせ、いろいろ提案している。進路選択に関する取り組みは、オープンキャンパスへの同行やスーツ着こなしなど、ユニークな取り組みだと考えた。どの事業者にしても平均点以上のことはできるのではないかな。
B 委員	3者とも他の自治体の実績もあり、一定レベル以上のことができそう。一次審査では、あまり点数の幅はつけないようにしている。差を付けるのは二次審査で行うようにしている。 A事業者は、資料が非常に簡潔にまとめられている。福祉的な視点からのアプローチが色濃く出ており、学習意欲が低い生徒の対応や、少人数指導提案がある。そのあたりが手厚い内容になっているとして評価した。 B事業者は、全体として資料が読みづらいが、貧困家庭の子どもの状況を理解していそう。連携体制では、NPO法人、一般社団法人の三つで連携するとしているが、責任がどうなるのか確認をしたい。保護者の相談では、電話面談、メール等、複数のツールを備えて相談しやすいシステムは評価した。 C事業者は、組織的な対応ができている印象。キャリア支援等は明確で、人材育成の研修なども充実している。相談支援のなかで、大学と連携した自習スペースの確保とあるが、何をしようとしているのか疑問がある。確認をしたい。

D委員	C事業者を一番高く評価していて、二番目がA事業者、三番目がB事業者としている。 A事業者は、基本的な内容は、要点を抑えて説明されている。こだわりを持った提案もされているのが特徴でいいのだが、特徴の具体的な記載がない。関連機関との連携も、学校等の連携以外は具体性がない。理解度の把握も、どのようにやるのかあまり明確ではない。資料作りのうまさはあるが、具体的に見えないところがたくさんあるので、確認が必要。 点数の差をつけた方がいいかと思い採点したが、もう少し緩やかな差に変更してもよいかと思っている。 B事業者は、基本的なところは書かれているが、具体性に欠けるところがたくさんある。I C T学習教材の使用は、独自開発なのか既存のものなのか説明がない。特別な支援を必要とする生徒への対応も一般的なことしか書かれていない。レジリエンス型キャリア支援モデルはとても興味深いが、理念は書いてあるけれども、企画提案にどのように生かされているか関連性が見えない。安全管理についても、一般的なことは書いているが、特徴的でもなく、説明があまり丁寧ではない。 C事業者は、どの項目も考え方がしっかり示されている。考え方が最初に書いてあり、それに基づいた具体的な方法、進め方や頻度が明記されている。港区の地域特性の把握は、外国ルーツの子どもへの配慮がある。保護者が専門職が多いのではという話があり、港区に住む親子の特性が考えられている。キャリア支援という項目も各種ワークショップや講座の開催、大学のオープンキャンパスに同行するなど、非常に具体的な取り組みと、実績に基づいたやり方が書いてあり、効果があるのではないかと期待できる。企画提案書として完成度が高い。
委員長	各委員からの講評を踏まえて、審査にあたっての意見交換を行う。
E委員	安全管理のことで確認をしたい。保険に加入するとなっているが、これは事業者が加入するということなのか。
事務局	事業者が加入するもので、参加者が自宅を出てから帰るまでの保険の加入が必要となっている。仕様書にも記載されているので、比較の必要はない。
E委員 事務局	キャリア支援のところで確認したいのが、どのような子どもが多いのか。 有名な進学校の子もいれば、都立高校の子もいる。特別支援学校の子もいる。キャリア支援としては、一般受験の子もいれば推薦の子もいて、就職の子もいるので、それぞれの情報を伝えていく必要があると考える。
E委員 事務局	学力はあるということか。 学力は幅広い感じではある。
A委員	子どものニーズとしては、勉強を頑張りたい子が多いのか、居場所的なことを求めている子が多いのか。両方ではあると思うが、どちらが多いのか。
事務局	学習に重点を置いている子、居場所を求めて大人と話をしたい子もいる。参

A委員	加することで自分のペースを作っている子もいる。
事務局	実施状況報告書を読むと、出席率が高い子もいれば、最初は来て来なくなる子もいる。今の事業者は勉強を重視していると思うが、出席率が高い子は勉強を頑張りたい子なのか、大人と話をすることや居場所を求めてきているのか。来なくなる理由は何なのか。
A委員	出席率が高い子どもの方が学習に力を入れていることが多い。家庭への支援も必要な子どもは休みがちだが、それでも来てもらいたいというもの。
事務局	高校生の学習支援となると、大学に行くことや、その先を見据えて学習について支援していくことは絶対に必要ではあるが、一方でドロップアウトをさせないようにすること、勉強があまり得意じゃない子も支援することが大事。事業の趣旨としては両方大事ではあるが、区としての考え方はどうなのか。
D委員	義務教育期間と違って、なかなか公的な見守りが少なくなってくる年代なため、ドロップアウトしないという姿勢を持っていきたい。
事務局	教育や進学に力を入れている事業者を選ぶべきか、もう少し居場所や福祉的な対応ができる事業者がいいのかという話しになる。発達障害や精神疾患の子どもデータのデータはあるのか。
A委員	データとしてはないが、そういう支援が必要な子どもが一定程度いる。そういった子どもは欠席が多くなりがちと考えている。
事務局	特別支援学校は結構しっかりキャリア支援や卒業後のことまでやってくれるが、おそらく他の学校は違うのでは。支援が必要な子にどこまで力を入れるか。支援にだけ力をいれると勉強を頑張りたい子が来なくなるということがあるので、空間を分けるようなことはどうなのか。
E委員	区民協働スペースを使っているが、一か所は2部屋借りることが可能。もう一か所は広い部屋を1部屋借りている。そちらはある程度机の配置で対応が可能ではないか。
D委員	学生が学習支援のボランティアを行うこともあるが、勉強を頑張りたい子と居場所が欲しくてお喋りしたい子が同じ場所に来るので、どういうふうに配慮しながらやるかというのは大きな悩みになっている。
E委員	二次審査で質問をしてみるのがいいのではないかと。相談支援の採点で変更を考えている。スマートフォンの使用を前提にした提案がされているのが、大丈夫なのかと思ったが、スマートフォンは普通に持っていそうなので、このことでの減点は修正しようと思っている。
D委員	危機管理の採点で変更を考えている。
E委員	一次審査と二次審査の配点は、一次の配点は1000点満点、二次は500点満点。割合では一次審査が重い。ただ、差は50点ぐらいなので大きな差はない。
E委員	他の委員に解釈を聞きたい。iPadを用意するとあるが、予算に端末のレン

A委員 事務局	タル代が入っているが、他のところが入っていない。 確かに貸し出しが6台となっている。 現状の学習支援では、自分のものを持ってきている子やスマホのアプリでやっており、何らかの機器は持っている。ただ、大きな画面でやりたいようなときは、貸し出していることもある。
E委員 C委員	B事業者は、書いていないが自社の教材を使用か。 中退防止にLINEを使って即座にやり取りをするというのはいいと思ったが、それ以外の書き込みが薄いので、採点を変更する。
E委員 A委員	今はもうLINEは古い。 高校生とLINEを事業者がするのはどうなのか。オープンだったらいいが、個人で連絡を取ることができてしまう。その辺は、二次審査で確認する必要がある。
委員長	概ね意見が出そろったと思う。一旦ここで、意見交換を踏まえて自身の採点を振り返る時間とし、採点を変更する場合は、採点表の修正を。5分後に事務局が採点表を回収し、再集計を行う。 (各委員が採点を見直し事務局が回収、再集計) (A委員は、A事業者の管理運営の(1)を6点から8点に修正、B事業者の事業内容の(3)を12点から9点に修正) (B委員は、修正なし) (C委員は、A事業者の事業内容(7)を8点から6点に修正、B事業者の安全管理(2)を8点から6点に修正) (D委員は、A事業者の事業内容(2)を4点から6点に修正、B事業者の管理運営(3)を4点から6点に修正) (E委員は、A事業者の事業内容(3)を6点から9点に修正、C事業者の事業内容(3)を6点から9点に修正)
委員長	集計の結果、一次審査の順位は、1位C事業者、2位B事業者、3位A事業者となった。一次審査通過者は募集要項では3者程度となっているが、今の一次審査を踏まえ何者を通過とするか、意見はあるか。
A委員 各委員 委員長	不明な点を聞く機会を設けるため、3者とも選考通過でよいのではないか。 (異議はなし) それでは、二次選考に進むのは3者とする。
委員長	【4 二次選考について】
事務局	二次選考について、事務局から説明を (事務局から説明)
委員長	まず、資料4二次審査採点基準表(案)について、意見はあるか。
A委員	「提案の発展性」とあるが、発展性とはどのようなイメージか。
事務局	次の支援に結び付くようなものになっているか、それと、1年目はこういう

	支援で、2年目の支援につながるというような、長期的な視点をもっているかといものと想定している。 D委員 E委員 事務局 人材確保もあたるのでは。 港区はこの事業を次年度以降も続ける予定か。 継続する予定。プロポーザルで決定した事業者に関しては、最大5年間推薦できるため、特段の事情がなければ今回決定した事業者に5年間は継続で委託する。 D委員 事務局 「発展性」を「持続性」に言葉を改めてもいいのではないか。 では「持続性」に変更とします。 E委員 事務局 音声を流したいという事業者がいた場合は、スピーカー等はどうするのか。パソコンのスピーカーからとなると思うが、確認する。 E委員 質疑応答の時間は長くなってもかまわないのか。 B委員 ヒアリングで長短があると、あらぬ誤解を招く可能性がある。皆同じ時間で行う方がよい。 委員長 では、質問は15分とし、質問には端的に答えてもらうようお願いする。プレゼンテーションとヒアリング、トータルで30分とする。 E委員 事務局 他にあるか。 プレゼンテーションの時に委員の名前は出すのか。 最終的には名前はでる。ホームページにも載せるが、議事録には誰が発言したかは出ない。 D委員 二次審査の採点基準表はこれでよいか。では、「持続性」に修正すること、質疑応答の時間は15分とする。 もう一つ、全事業者への共通質問事項を設けるかどうかだが、事業者によって、聞きたいポイントが違うようなので、気になったことを質問するということで。 事務局 それでは、予定された議題は全て終了した。事務局から連絡事項を。 (事務局から連絡事項を説明) 委員長 【5 閉会】 以上で第2回事業候補者選考委員会を終了とする。
--	---